

天皇賞春

<AI注目馬>

1, 2, 3, 6

<最終見解>

天皇賞春にディーパインパクト産駒が出走するようになったのは2013年から。
(過去2年は阪神で行われたため)京都で開催されたのは8回。

連対馬のべ16頭のうち、14頭は
ステイゴールド、ハーツクライ、ディーパインパクトいずれかの産駒。

この3大種牡馬以外の産駒で連対したのはキタサンブラックのみ。

ステイゴールド、ハーツクライは母系に欧州型ナスルーラを持つ種牡馬。

ディーパインパクト産駒で唯一勝利(2勝)したフィーエルマン。
キタサンブラックはいずれも母は欧州型ナスルーラが強調された馬。

欧州型ナスルーラを補強された配合馬が有利なレース。

本命はアスクビクターモア。

母父が欧州型ナスルーラ系のレインボークエスト。

その産駒のサクラローレルは、古馬になって体力が完成。天皇賞春も優勝。

京都の長丁場こそが、末脚のスピードを持続させる長所を
最大限に発揮できることでしょう。

タイトルホルダーの父はドゥラメンテ。

ディーピンパクト、ハーツクライと肩を並べるスーパーサイヤー。
母系に欧州型ナスルーラとノーザンテーストを持つのは
ステイゴールド、キタサンブラックと同じ。

母父モチヴェーターはサドラーのなかでは伸びを強化するタイプ。
京都の天皇賞向き。

マテンロウレオは当レースに強いハーツクライ産駒。
母父ブライアンズタイムで当レースを単勝万馬券で勝利した
ビートブラックに近い配合。

2000m からのローテーションも今年は特に有利。

ヒュミドールは当レースに強い欧州型ナスルーラが強調された配合馬。

他に挙げた馬も含め、2000m 重賞でも実績あるのは京都の当レースで強調材料。